

□ (評論) 採点基準 (合計≒50点)

問一 4点

(解答) 口

問二 5点+3点≒8点

(1) 5点

(模範解答例)

A○2点

B○3点

他者の他者性と多様性を認め、複雑な世界を複雑なまま生きることが可能にする社会。 (5点)

■各加点要素の加点の条件

【A・Bに関して部分採点を行う (A・Bそれぞれ単独に採点を行って構わない)】

A 「他者の他者性と多様性を認め」 (2点)

▲ 「他者性」または「多様性」のどちらか一方のヌケは▲1点減点で△1点。

△ 「他者を他者として受け入れ」などは、△1点。

B 「複雑な世界を複雑なまま生きることが可能にする社会」 (3点)

▲ 「複雑」の説明が不十分な場合 (「複雑なまま生きること」を「可能にする (できる)」「のヌケなど」)、▲1点減点。

(2) 3点

(解答) 人間のもつ認知的な限界を突破 (5点)

○ 「人間の認知的な限界を突破」も可。

✖それ以外は全て不可✖。

問三 4点×2≒8点

(解答) X≒八 Y≒二

問四 10点＋6点＝16点

(1) 10点

(模範解答例)

A ○5点

B ○2点

資源の困い込みに満ちあふれた膜と中央集権的な組織に満ちあふれた核という二つの現象が 権力や貨幣を
C ○3点

実体化させ、静的で横暴なものへ変質させる事態になること。(75字) (10点)

■各加点要素の加点の条件

【A・B・Cに関して部分採点を行う(A・B・Cそれぞれ単独に採点を行って構わない)】

A 「資源の困い込みに満ちあふれた膜と中央集権的な組織に満ちあふれた核という二つの現象が」(5点)

○「膜」と「核」の2つの説明がそろっていて○。

△「膜」と「核」のどちらかの説明が不十分・抜けている場合、▲3点減点で△1点。

B 「権力や貨幣を実体化させ」(2点)

C 「静的で横暴なものへ変質させる事態になること」(3点)

▲「静的」の説明のヌケは▲1点減点。

(2) 6点

(模範解答例)

A ○2点

B ○2点

C ○2点

生命論として根深い起源をもっているため、道は険しいという冷徹な認識に立って 解決の可能性の中心に

近づぐべきだ。(54字) (6点)

■各加点要素の加点の条件

【A・B・Cに関して部分採点を行う(A・B・Cそれぞれ単独に採点を行って構わない)】

A 「生命論として根深い起源をもっているため」(2点)

○「社会システムは生命システムにおける一現象に他ならないため」など、「社会システムも生命システムと同様であるため」という内容でも、Bが①の内容であれば、可。

B 「道は険しいという冷徹な認識に立って」(2点)

○①「道は険しい」という認識」の代わりに、②解決の手段である、「新しい情報技術によって」・「インターネットやコンピュータ技術によって」などでも可○。

○「道は険しいが、新たな情報技術によって」などのように①②のどちらも書かれていてももちろん○。

C 「解決の可能性の中心に近づくべきだ」 (2点)

○ 「問題の解決の方向に進むべきだ」という内容。「問題の変容を迫っていくべきだ」などでも可。

○ 「 \sim という主張。」という文末は、もちろん○。「 \sim という主張。」という文末になっていなくても、文末が主張を述べている形になって入ればよい。

問五 4点

(解答) 二

問六 3点×2＝6点

(解答)

(a)＝イ

(b)＝ホ

問七 4点

(解答)

ハ

二 (評論) 採点基準 (合計 50 点)

問一 2 点 × 4 = 8 点

(解答) 1 足跡 2 鍵 3 刺激 (刺戟) 4 立論

問二 5 点

(解答) 単なる自然環境 (5 点)

※抜き出しのため、解答以外不可。

問三 6 点

(模範解答例)

私たちが実際の生活のなかで感じる (6 点)

■ 字数：二十字以内 九字以下のものは全体不可 (0 点)

■ 加点要素の加点の条件

○ 「自然との関わりをもつもの。」につながる形になっていること。

※ 傍線部の「日常直接の事実」について説明していないものは ✕。加点なし

※ 傍線部 B とその直後の段落の具体例との関係を問いに行っている。

傍線部 C から傍線部 D の前までは問四の要素と考え、ここでは、

✕ 「志向的關係」「關係的構造」「具体的地盤」を解答に入れているものは加点しない。

○採点例

【○6点】

- 1 私たちが実際の生活のなかで感じる
- 2 人間が実際の生活の中で主観的に感じる

※本文に「客観的な存在ではない」とあるので、「主観」を入れてもよい。

【×0点】

- 3 実際の生活のなかで感じる人間が双方向的に
× 「実際の生活のなかで感じる」という点の指摘は正しいが、「人間が双方向的に」が何との「双方向」なのかかわからない。また、人間と自然の相互的關係は最終段落で否定されている。これらのことから、この答案に加点はしない。
- 4 私たちの生の「具体的基盤」として
- 5 「志向的」「關係的構造」の中で出会われる

問四 9点

(模範解答例)

A ○3点

B ○3点

C ○3点

私たちは外部から孤立した存在ではなく、何らかの關係のなかにあり、その關係を意識するという存在。

(47字) (9点)

■字数：五十字以内 二十四字以下のものは全体不可 (0点)

■各加点要素の加点の条件

※各要素同意表現可。

A 「私たちは外部から孤立した存在ではなく」(3点)

× 「点」として孤立しているのではないということの説明していないものは要素A加点なし ×0点。

▲ 「外部」との關係性に触れていない場合、▲2点減点。

B 「何らかの關係のなかにあり」(3点)

× 要素Aに対して、關係のなかにあるということの説明していないものは要素B加点なし ×0点。

C 「その關係を意識するという存在」(3点)

× 傍線部の「志向」の意味を説明していないものは要素C加点なし ×0点。

※要素Aは「外部」との關係性に触れる必要があるが、

この問いでの要素B・Cは「外部」との關係ではない。すべてが「内」である。

問五 5点

(解答) 口

問六 12点

(模範解答例)

A○3点

B○3点

ハイデガーは世界が人間に先立って開かれていて、

そのなかで人間は個々の存在者と出会うとしているが、

C○3点

D○3点

和辻は人間が自己を認識する前に自他の存在する場に置かれていて、そこでこそ自己を見出すとしている

という点。 (100字) (12点)

■字数：百字以内 **四十九字以下のものは全体不可** (0点)

■各加点要素の加点の条件

※各要素同意表現可。

A「ハイデガーは世界が人間に先立って開かれていて」(3点)

※ハイデガーの考える前提を説明していないものは要素A加点なし×0点。

B「そのなかで人間は個々の存在者と出会うとしているが」(3点)

※要素Aの中でのハイデガーの考える人間のあり方を説明していないものは要素B加点なし×0点。

C「和辻は人間が自己を認識する前に自他の存在する場に置かれていて」(3点)

※和辻の考える前提を説明していないものは要素C加点なし×0点。

D「そこでこそ自己を見出すとしているという点」(3点)

※要素Cの中での和辻の考える人間のあり方を説明していないものは要素D加点なし×0点。

問七 5点

(解答) **自己了解** (5点)

※抜き出しのため、解答以外不可。

三 (古文) 採点基準 (合計50点)

問一 1点×4＝4点

(解答) ㉓ おとど ㉔ つかさめし

㉕ ものいみ ㉖ さしぬき

※㉓は「だいじん」は✖。

問二 2点×3＝6点

(解答)

(1) ㉑ し (2点) ㉒ しか (2点)

(2) ㉓ あらめ (2点) ※「あれ・有らめ・侍らめ」などは×。

問三 3点×3＝9点

(解答) 甲 ホ 乙 イ 丙 ハ

(解答例)

A○1点

B○1点

C○1点

D○1点

E○2点

御容貌も、

御性格も、

子孫が

榮えなさることも、

優れていらつしやうた。(6点)

「ポイント」

○句読点の有無は不問。

A

B

C

D

E

※傍線部「御みめも、御心ばへも、末 榮えさせ給ふことも、優れておはしましたか。」

A 「御容貌も」(1点)

○「容貌」は「容姿・顔立ち・姿・顔つき・見た目・外見・器量」等でもよい。

✕「美貌・美形」等は✕。

○「も」は「や・と」でもよしとする。

✕これらがなく場合は✕。

○「御・お」等はなくともよしとする。

B 「御性格も」(1点)

○「性格」は「性質・気質・気立て・人柄・心の様子・心持ち・心のあり様」、または「心づかい・配慮」等でもよい。

○「も」は「や・と」でもよしとする。

✕これらがなく場合は✕。

○「御・お」等はなくともよしとする。

C 「子孫が」(1点)

○「子孫」は「末裔・後裔」等でもよい。

✕「末代・将来・後世」などは✕。

✕「は・が・の・も・まで・を」等がない場合は✕。

D 「榮えなさることも」(1点)

○「榮える」は「繁栄する」等でもよい。

✕尊敬の意(〓お〓になる・〓なさる・〓ていらつしやる・〓なされる 等)がない場合は✕。
「〓される」のような尊敬表現かどうか確定できない表現は✕。

✕使役の意(〓〓させる)がある場合は✕。

✕「ことも・のも」に相当する表現がない場合は✕。

○過去の意(〓〓た)の有無は不問。

E 「優れていらつしやうた」(2点)

○優れる「は」秀でている・抜きん出ている」等でもよい。

▲尊敬の意(〓お〓になる・〓なさる・〓ていらつしやる・〓なされる・〓ておられる 等)がない場合は▲減点1点。

▲また、「〓される」のような尊敬表現かどうか確定できない表現は▲1点減点。

▲使役の意(〓〓させる)がある場合は▲1点減点。

▲過去の意(〓〓た)がない場合は▲1点減点。

X (4点)

(解答例)

A ○2点

B ○2点

匡房に負けはしたが、薄花桜の歌は心に染みる素晴らしい歌であった。 (4点)

「ポイント」

A 「匡房に負けはしたが」(2点)

▲「負けた」がなく「劣った・匡房の歌が評判を取った」等になっている場合は▲1点減点。

○「匡房に」は、『白雲と』の歌に「『白雲と見ゆる』の歌に「『白雲と見ゆるに』の歌に「『白雲と見ゆるに』の歌に」でもよい。

▲これらが無い場合は▲1点減点。

×『白雲は』の歌に・『白雲』の歌に・Xの歌に「等は×。

○「歌合で」等の有無は不問。

B 「薄花桜の歌は心に染みる素晴らしい歌であった」(2点)

○「薄花桜の歌」は「あなたの歌・筑前の御の歌」でもよい。

○「歌は」の「は」は「のほうが」等でもよい。

○「心に染みる素晴らしい歌であった」は「心に染みた・心に残った・感動した・気に入った・心惹かれた」等か、「素晴らしかった・よい・優れていた・秀でている」等の、いずれかがあればよい。

Y (4点)

(解答例)

A ○2点

B ○2点

師実に褒められたので、匡房に負けたことは気にもならない。 (4点)

「ポイント」

A 「師実に褒められたので」(2点)

○「師実」は「あなた・殿・大殿」でもよい。

○「褒められ」は「評価され・気に入れ・染み入る」等でもよい。

B 「匡房に負けたことは気にもならない」(2点)

▲「負けた」がなく「劣った・匡房の歌が評判を取った」等になっている場合は▲1点減点。

▲「匡房に負けたが」の意はあるが「気にもならない」に相当する表現がない場合は▲1点減点。

○ただし、「気にならない」は「**かまわない・よい・よかった・嬉しい・幸せだ**」等でもよく、この表現は要素Aのほうにあってもよい。

○「匡房に」は、『白雲と』の歌に「『白雲と見ゆる』の歌に「『白雲と見ゆるに』の歌に「『白雲と見ゆるに』の歌に」でもよい。

▲これらが無い場合は▲1点減点。

×『白雲は』の歌に・『白雲』の歌に・Xの歌に「等は×。

○「歌合で」等の有無は不問。

(解答例)

A ○2点

B ○1点

蹴鞠のことで盛長を褒めた 師実を恨んで脛をつねったが、

C ○2点

D ○2点

それに気づいた師実が自分も褒めてくれたので、機嫌が直ったから。(7点)

「ポイント」

A 「蹴鞠のことで盛長を褒めた」(2点)○ 「師実が蹴鞠のことで盛長を褒めた」の意が読み取れば【2点】。

△ 「盛長を褒めた」がなく、「自分は」褒められなかった」の意がある場合は【1点】。

▲ 「師実が」の意が読み取れない場合は▲1点減点。

▲ 「蹴鞠のことで」の意が読み取れない場合は▲1点減点。

B 「師実を恨んで脛をつねったが」(1点)

○ 「恨んだ」の意が読み取ればよい。

○ 「恨んだ」は「妬んだ・羨んだ・気に入らなかった・不満だった・不快だった」等でもよい。

○ 「師実を」や「脛をつねった」の有無は不問。

▲ 「和歌で返事をした」「足を洗うことでほめられようとした」等、誤った内容がある場合は、▲1点減点。

C 「それに気づいた師実が自分も褒めてくれたので」(2点)

○ 「師実が自分(行綱)も褒めた」の意が読み取れば【2点】。

○ 「蹴鞠のことで褒めた」と書かれていなくてよいが、▲ 明らかに「蹴鞠」以外のことで褒めたことになっている場合は▲1点減点。(例) 丁寧に足を洗ったので師実にほめられた【1点】

▲ 「師実が」の意が読み取れない場合は▲1点減点。

D 「機嫌が直ったから」(2点)

○ 機嫌が直った」は、「上機嫌になった・気をよくした・嬉しかった・喜んだ」などでもよい。

△ 右の意がなく「恥ずかしかった」や「答えに窮した・言葉で返答できなかった」等がある場合は【1点】(右の意がある場合はこれらの有無は不問)。

▲ 文末表現が「から・ので・ため」(理由説明)になっていない場合は▲1点減点。

(解答例)

A〇2点

B〇2点

C〇2点

D〇1点

E〇1点

隣れんだ女に洗ってもらい、それが縁で女と結ばれたこと。 (8点)

「ポイント」

A 「行綱が」(2点)

○説明される対象(説明箇所の主体)が「行綱」であることが読み取ればよい。

B 「師実から賜った美しい指貫姿を女に見せようして」(2点)

①「美しい衣(姿・布)を見せようとした・美しい衣(姿・布)で」の意が読み取れば【1点】。

○「美しい衣(姿・布)」は「師実からもらった衣(布)」などでもよく、「薄紫の指貫や、香の染め布」などでもよい。

②「女に見せようとした・女に会いに行った・女の所へ行った」の意が読み取れば【1点】。

○「女」に対する「普段会えない・なかなか会ってくれない・高嶺の花の」等の形容の有無は不問。

C 「堀池に落ちて泥まみれになり」(2点)

①「池(堀池・堀)に落ちた」、または「落馬した」の意が読み取れば【1点】。

※「馬に蹴られた」の意がある場合は右の【1点】は得点できない。

②「泥まみれになった・土をかぶった」の意が読み取れば【1点】。

D 「隣れんだ女に洗ってもらい」(1点)

○「女が隣れんだ・女にかわいそうに思われた」、もしくは、「女に洗ってもらった」のいずれかの意が読み取ればよい。

E 「それが縁で女と結ばれたこと」(1点)

○「それが縁で」「女と」の有無は不問。

○「結ばれた」の意が読み取ればよい。

○「結ばれた」は「結婚した・交際した・男女の仲になった」等でもよい。

○「馬だけが反ってきた」「蹴鞠に参加しなかった」等の内容の有無は不問。

(解答) 口

四 漢文 50点

問一 2点×4＝8点

(解答) a いやしくも b やま

c いえども d いわんや

「採点のポイント」

▲歴史的仮名遣いの場合には、▲減点1点。

例 c 「いへども」 d 「いはんや」

※送り仮名不足0点。

例 a 「いやし」 b 「や」 c 「いえども」 d 「いわ」

問二 6点

A○3点

B○3点

(解答例) 書物を読んでも見識がないのは、読まないのと同じである。(6点)

「採点のポイント」

※A 「見識」がないものは不可※。

※B 比況の表現のないものは不可※。

問三 5点×2＝10点

(i) 5点

(解答) 須^レ如^二在^レ外者之求^一帰^レ家

「採点のポイント」

※送り仮名やその他(不要な記号や数字)を書いたものは0点。

▲返り点の誤り・不足：一か所につき▲減点1点。

▲「一レ」点の不備の場合は▲減点2点。

(ii) 5点

A○1点

B○2点

C○2点

(解答例) 外にいる者が家に帰ろうとするのと同じようにする必要がある。(5点)

〔採点のポイント〕

▲C「するべきだ」「あるべきだ」「やるべきだ」等は△1点。

※「するのがよい」は×0点

問四 5点

A○1点 B○1点

C○1点

D○1点

E○1点

(解答例)

あに しよをよむと しよをする にたら んや (5点)
(しよをよむと) (しよをする)

〔採点のポイント〕

○現代仮名遣い、歴史的仮名遣い どちらもで○。

問五 5点+9点=14点

(i) 5点

A○2点

B○1点

C○2点

(解答例)

奚を以て(か) 迷子の道路に行くに 異ならんや(と)。(5点)

〔採点のポイント〕

▲漢字で書くべきところを平仮名にしている場合、1か所につき▲1点減点

B○「行くに」は「行くと」も許容。

(ii) 9点

A○2点

B○2点

(解答例) 今の書を読む者が、多くの書や珍奇な書を読むことに熱中して、

C○5点

読書本来の目的を見失っている状況。(9点)

〔採点のポイント〕

※50字以内で説明。40字未満は0点。文末は「く状況。」が望ましいが、名詞化されていれば減点しない。

A△「今の」「現代の」がない場合は△1点。

B○「多くの書」「珍奇な書」の要素は片方でも2点。

○「熱中」の要素はなくとも可。

C△「読書本来の目的」を具体化しているもの△3点。

▲たんに「読書の目的」とするものは▲1点減点。

○「本来の」は「本当の」「あるべき」「なごいでも○。

▲「本来の」のヌケは▲1点減点。

A○1点

B○2点

C○1点

(解答例)

自己を修養し、學術・国家の繁栄という目的にかなう、有用なものを見極め

D○3点

見識を養うべきもの。(7点)

「採点のポイント」

A○「修養」は「修練」「修身」などでも可。

B△「學術」「国家」は片方の場合は△1点。

C○「見極める」は「選ぶ」など。

D○「見識」はどの位置にあっても入っていたら○3点。